

「バドミントンにおける競技力向上について」

バドミントン専門部 野本 尚 (県立川口高等学校)

はじめに

埼玉県はバドミントンの強豪県であり、長い間の普及活動・競技力向上の歴史がある。ジュニアから、中高大まで指導者に恵まれ、その歴史を継続するに足る基盤がある。埼玉栄の全国総体の連覇を上げるまでもなく、多くの学校でその実績に応えるだけの努力を続けている。近年では世界レベルでの争いを行える力をつけた選手も増え、その層の厚さにより、2020年の東京オリンピックには、メダルはもとより、多くの活躍を見せてくれるものと信じている。

1 高体連バドミントン専門部について

- ・協会登録数： 教員 421 人
(2015年度) 生徒 5395 人
*年々、生徒の登録数が増加している。

- ・大会について

- 4月 関東大会地区・県予選会
- 5月 全国総体地区予選会
- 6月 関東大会・全国総体県予選会
- 7月～8月 全国総体
新人大会地区予選会
- 9月 新人大会(団体戦)地区予選会
- 11月 新人大会県予選会
- 12月 関東選抜大会
- 1月 各地区大会
- 3月 全国選抜大会

以上、抜粋

*年間を通して大会を開催しており、特にオン・オフシーズンはない。

2 競技力向上について

(1) 今年度の成績

- ① 全国高等学校総合体育大会
学校対抗 男子 埼玉栄 優勝 女子 埼玉栄 ベスト8
個人 ダブルス 男子 3位 女子 4回戦
シングルス 男子 3位 女子 準優勝
- ② 国民体育大会
少年男子 3位 少年女子 2位
- ③ 全日本ジュニア選手権
男子 シングルス 優勝 3位 ダブルス 優勝 3位
女子 シングルス 3位 ダブルス 優勝

(2) レベルに応じた指導

- ① ジュニアから競技を始める選手
 - ・昨今、県大会出場選手のほとんどがこの時期から競技を始めている。埼玉県のレベルの高さを象徴する現象だが、ますますその傾向が顕著になっている。この時期に、バドミントン競技の楽しさを理解させ、上級学校進学後も協議の継続性をもたせる必要がある。また、人間性を磨かせることにも重点的な指導を行うべきである。強ければよいということ、勝利至上主義に陥らせないことが大事だ。

② 中学・高校から競技を始める選手

- ・上記に記載した通り、高校生の中心選手はジュニア世代であり、この時期から始めた選手は努力の結果が表れないジレンマに陥っている。特に、中学から始めた選手は、高校で継続しない傾向があり、中学校の部活動の指導に今後の重点を置く必要があるのかもしれない。また、出場制限で出場できる枠にしばりがあり、部員の多い学校は3年間、公式戦に出られない選手も多い。

*強化練習会 7月23日～25日 県上位選手

*指導者講習会 4月24日 テーマ {高校から始める バドミントン}

指導者 ミズノ 阿久津 氏

内容：ストローク、フットワーク、ノック形式等

(3) 今後の課題

- ・県大会上位選手の指導・強化は、各学校顧問・コーチ等に任されているだけでなく、他県との交流試合や強化練習会などが実施されている。しかし、その他大勢の選手の指導・強化は完全に各顧問に任されている。その顧問も多くは素人で、指導歴や実績がなく、とても苦勞している。最近、川口市内の交流や強化の意味合いで、市の協会の協力を得て、市内の高校生大会を実施したり、協会が高校生対象に指導会を実施してくれたりしている。また、高校から開始した初心者のモチベーションをあげるために、諏訪山カップ（初心者のクラス）を実施したり、裾野を広げる活動をしている。また、会長杯ダブルス大会においては、地区大会に出場していない選手のクラスを用意している。今後も、様々な形で、バドミントンの楽しさの伝授と競技力の向上に専門部として取り組んでいきたい。